

街のオアシス 再発見 第16回



「桑園」ゆかりの地 知事公館(札幌市)

森林インストラクター
小沢 信行 (おざわ のぶゆき)

十勝管内足寄町出身。1978年北海道新聞社に入社。記者として函館、釧路、小樽などで勤務。編集委員、論説委員などを務め2017年退職。日本森林インストラクター協会会員。道新文化センターで樹木観察の講師を務める。著書に「こうしてできた北の銅像」。

札幌市中央区の知事公館周辺はかつて桑畑でした。1875年、酒田県(現山形県)の旧庄内藩士族156人が現在の知事公館内に建てた宿舎に寝泊まりし、21万坪(69.3畝)を開墾。桑苗4万株を植えたことで、この地から北側一帯が「桑園」と呼ばれるようになりました。

戦前、民間の迎賓館だった建物が知事公館となったのは1953年。周辺の緑地が憩いの場として一般に開放されたのは1982年です。

敷地内には安田侃、流政之両氏の彫刻が常設展示され、北側には道立三岸好太郎美術館、西隣には道立近代美術館があり、美術愛好家にとっても魅力的なエリアです。

なぞめいた記念碑

旧庄内藩士族の開墾後、屯田兵らが桑を栽培しますが、寒冷な気候で生育は芳しくありませんでした。1892年、現在の知事公館一帯を取得したのが、開拓使で札幌農学校(現北海道大学)の第2代校長を務めた森源三です。1902年には本道初の衆議院議員となりました。

源三の庭には桑園開拓の由来を記した標木がありましたが、腐りかけ文字も判然としませんでした。そこで、源三が死去して2年後の1912年、長男広が近隣の有志とともに敷地内に「桑園碑」を建立します。碑の裏側には「桑園碑陰文」というタイトルで開墾の歴史と源三の功績が書き込まれました。陰文とは石に刻んだ文字のことです。



広い芝生にアクセントを与える彫刻



乃木希典揮毫の「國富在農」碑

ところが、いつの間にか「桑園碑」の表記が「國富在農」となります。国の富は農業にあるという意味で、揮ごうしたのは日露戦争時の陸軍大将で後の学習院長、乃木希典のぎまねです。碑は現在、東門付近にあります。

「桑園」は正式な地名ではありませんが、駅名や学校名などとして残り、地元の人には愛着のある言葉です。地域の歴史を語り継ぐ上でも、「桑園碑」を復活させるべきだと住民が1966年5月、正門の西側奥に、町村金五知事揮ごうの「桑園碑」を建てました。

碑の裏側には東門の碑と同じ文章が刻まれ、その後「桑園碑には、由緒ある開拓者の歴史が刻まれていた。いつの日か碑文は國富在農に改刻されて、現在東門内にある。先人の辛酸を道民とともに偲しのびたい念願から、桑園振興会有志相計り、ここに碑を復元する」という但し書きが添えられました。

しかしその後、東門の碑は最初から「國富在農」だったと説く郷土史研究家が現れました。源三が乃木からもらい受けた書を石に刻むため、源三の死後、広が乃木に了解を求めたというのです。

源三と乃木には共通の知人がいたことが根拠となっています。また、陰文を作成した東京在住の歴史研究家、村田峯次郎むらたのぶじろうは、乃木と旧知の間柄で、乃木の死後「乃木將軍伝」を書いています。



1966年に建てられた「桑園碑」

でも、この説を裏付ける具体的な資料はありません。書き換えがあったか否かは依然なぞのまま。敷地の東西両隅にある二つの碑は、木々に覆われ人目に付かず、ひっそりと立っています。

しゃれた戦前の洋風建築

作家の有島武郎ありしまたけおと札幌農学校で同級生だった森広は、有島の小説「或る女」のモデルになった人物です。卒業後、米国で事業経営の実務を習得し1909年に帰国します。その経験を生かし札幌で農機具などの輸入、種苗生産販売の会社を設立しました。1911年には森邸を洋風3階建てに増築します。邸宅は広が亡くなった1915年に三井合名会社が購入、「三井別邸」と呼び、迎賓館として使用してきました。1936年には西隣に2階建ての「三井別邸新館」を建設します。

戦後は米軍に接収されましたが、解除されると三井から札幌市に譲渡され1953年、土地交換で道が所有。旧館は取り壊され、残った新館が知事公館となりました。

公館の白壁を彩る赤い木組みは、柱や梁を装飾材として露出させるハーフティンバー様式です。白を基調とした建物は、緑の木々や芝生に囲まれ、美しいコントラストを演出しています。

2階の応接室は三角屋根による高い天井と出窓でゆったりとした空間を感じさせます。部屋ごとに違うシャンデリアは建築当時の社長の趣味だといわれています。1972年の札幌冬季五輪では、昭和天皇の宿泊所となりました。



白壁が木々の緑に映える知事公館

ビール醸造の功労者

正門から知事公館へ向かう途中、左手に村橋久成^{むらはしひさなり}の胸像があります。

薩摩^{さつま}（現鹿児島県）出身の村橋は英国留学を経て1871年開拓使に入ります。1875年、東京に建設予定だったビール醸造所を気候などの条件が適した札幌に変更するよう上申。翌年、自ら札幌で指揮を執り製品化に成功します。

しかし、1881年突然辞職し、1892年神戸で行き倒れの状態で見つかり、3日後に50歳で亡くなりました。

それから90年後の1982年、札幌在住の田中和夫^{たなかかずお}さんが村橋の半生を描いた小説「残響」を自費出版します。この年、田中さんは資料収集のお礼と本の贈呈を兼ね、村橋の故郷、鹿児島市を訪れます。

薩摩藩派遣英国留学生15人のモニュメント「若き薩摩の群像」が鹿児島中央駅前広場に建設された直後で、村橋はその中の一人でした。

市長との面会が実現し、村橋の話で盛り上がっていたとき、隣室で市長との面会を待っていた人物が、会話を聞きつけ市長室に入ってきました。その人こそ「若き薩摩の群像」の作者で鹿児島大学教授の中村晋也^{なかむらしんや}さんでした。



村橋久成の胸像「残響」

村橋の生き方に強い関心を抱いた中村さんは、田中さんから送られた村橋の写真をもとに銅像制作に取り組みます。翌年に完成した胸像は、小説と同じ「残響」というタイトルを付けました。

札幌のどこかに建ててほしいという中村さんの願いをかなえるため、田中さんは設置場所を探し回りましたが、無名に等しい人物の像を受け入れるところはなく、鹿児島市内の中村晋也美術館に収蔵されたままになりました。

ところが2003年、事態が好転します。女性初の北海道知事となった高橋はるみさんが同年7月、道議会本会議で初の道政執行方針演説を行い、「『新生北海道』の創造」を提唱。それを実現するために引き合いに出したのが村橋でした。

彼の功績を紹介し「本道の気候風土を活かす英知と確かな技術、そして開拓民の幸せを思う高い志が固く結びついたこの果敢な挑戦は、今日の北海道産業の礎となって開花した」と評価しました。

これが契機となり、2004年に「胸像『残響』札幌建立期成会」が発足。田中さんの職場だった旧国鉄の仲間や文学関係者たちから約300件、700万円近い寄付が集まりました。設置場所は知事の演説が縁となり、国内外の賓客が訪れる知事公館の前庭に決定。2005年9月、除幕式が行われました。

台座には「村橋久成胸像」という文字よりもはるかに大きな字で「残響」と記されています。作家と彫刻家の思いが響き合い、この地に誕生した「残響」です。

サイズが大きいホオノキ

芝生の南西脇に大きなホオノキが立っています。北海道から九州にかけての山地に自生するモクレン科の高木です。

枝先に葉が集まって付くので、遠くから見るとトチノキと間違えやすいですが、ホオノキの葉は縁にギザギザ^{きよし}（鋸歯）がありません。葉の長さは20～40センチと大きく、食べ物を包んだりしたため、包が語源だといわれています。

大きいのは葉だけではありません。クリーム色の花も直径約15センチと国内の自生樹木では最大級です。開花するのは5月下旬ごろから。

自家受粉を避けるため、開花初日は雌しべだけが開きます。翌日、雌しべは閉じ、雄しべが開きます。開花後2～3日で枯れますが、同じ木の花は一斉には咲かず、1カ月にわたり時期をずらしながら昆虫を呼び寄せます。

花の位置が高く、なかなか間近で観察することはできませんが、知事公館の木は枝が横に張っており、比較的近くで見ることが出来ます。9月になると、長さ10～15センチの長楕円形果実が成熟し、赤みを帯びてきます。



赤みを帯びるホオノキの果実

樹皮を乾燥させたものは和厚朴^{わこうぼく}と呼ばれ、胃腸の働きをよくし、せきやたんを治すのに使われてきました。木材は緻密で柔らかく加工性に優れ、まな板、版木、げたの歯などに利用されています。岐阜県飛騨地方では、乾燥させた葉に山菜を混ぜた味噌をのせて焼く朴葉味噌^{ほおぼ}が名物です。

見比べたいクルミ

敷地北側の小川沿いにはオニグルミの木があります。これから秋になると実が大きくなり、存在感を増してきます。

古くから日本に自生し、道内でも郊外に行くと、道端や川沿いなどで普通に見かけます。名前の由来は、果実の中にある殻の表面が鬼の顔に似ているからだといわれています。

木材は丈夫で肌触りがいいことから、銃を構えた際、肩に当てる部分の銃床として使われたり、家具に加工されたりしてきました。堅い殻はスタッドレスタイヤの素材にもなっています。



オニグルミの果実

また、敷地の北東側にはテウチグルミが植えられています。欧州～西アジア原産の栽培品種で、手で割ることが語源とされています。別名のカシグルミは菓子の原料になることから付けられたといわれています。

同じクルミの木を見分けるポイントは葉と果実です。オニグルミは葉軸から葉が5～9対出っていますが、テウチグルミは2～3対と少なめです。テウチグルミの葉は丸みがあり、縁はオニグルミのようなギザギザがありません。



テウチグルミの果実

オニグルミは果実が房状にたくさん付きますが、テウチグルミは1～3個程度です。果実が成熟するのは、暑さが和らぐ9月上旬ごろ。違いを見比べて歩くには絶好の機会です。

（おわり）